



# 官民ビッグデータ 運用開始



## 市の人口など1003項目公開

札幌市と一般財団法人さっぽろ産業振興財団(白石区)は31日、行政や企業が保有するビッグデータを共有・活用するための新システム「データ・スマート・シティー・サッポロ」の運用を始

市が昨年3月に策定した情報通信技術(ICT)の「活用戦略」に基づき、データ公開と活用を進めるため、市と同財団が約1億2千万円かけて新システムを構築した。官民参加型のビッグデータ活用は道内初。31日に公開したのは、市の人口など106種類の統計データ

データの活用事例などを紹介する「データ・スマート・シティー・サッポロ」のホームページ

### ビッグデータ活用の仕組み



と、企業が保有する商業施設の販売額や宿泊・観光施設の利用動向など12種類のデータ。1種類のデータは複数の項目に分かれており、項目数は官民の合計で1003に上る。データは専用HPで「人口」や「経済・観光」「保健・福祉」など12分野別に掲載。誰でも無

めた。専用ホームページ(HP)で約100種類のデータを公開するほか、市内のインフルエンザの流行状況や道路の積雪状況といった、生活に役立つデータ活用する実例も紹介している。(鈴木雄一)

## 専用HPに掲載 利用は無料、活用に期待

料でダウンロードし、加工や分析などに活用できる。市民にビッグデータへの関心を持つてもらおうと、HPには「ダッシュボード」というコーナーを設け、活用事例を六つ掲載した。

保健所の報告データを活用した例では、インフルエンザの患者数を区ごとに色分けした地図で表示し、過去の推移もグラフ化。流行の傾向が一目で分かり、予防に活用できる。

このほか、ごみ収集車が車載カメラで撮った道路の画像データを地図上に表示し、積雪状況が分かるようにした例や、市内の保育所の場所や定員、受け入れ状況などを地図上で検索できるようにした例などを掲載。今後も随時追加するという。

同財団の和康広情報産業振興部長は「地域の課題解決にビッグデータが活用できるよう支援していきたい」と話し、市民や企業向けに講習会を開くなどして、データ活用の裾野を広げる方針だ。

HPのアドレスは<https://data.pf.sapporo.jp/>

2018年2月1日朝刊札幌市内版(記事は再編集しています)

①保健所のデータの活用例を記事から抜き出しなさい。

②傍線部について、どのようなデータを活用してどのような課題の解決を図るか、考えてみましょう。